

## 外国語科学習指導案

1. 履修単位 4単位
2. 実施日時 令和3年11月17日(水) 第3時限
3. 学 級 3年5組(18名)
4. 使用教科書 Vivid English Communication III NEW EDITION (第一学習社)
5. 単 元 名 Lesson 4 Can Cellphone Recycling Help African Gorillas?

### 6. 単元設定の理由

#### ○題材観

本単元は、北米の動物園で実施している携帯電話のリサイクルプログラムを取り上げ、携帯電話に使用されるレアメタルの採掘が原因でアフリカのゴリラが危機に瀕している問題とその解決のための取組について説明している。ここで学習する背景知識や豊富な言語材料を用い、環境問題について今まで学んできたことをもとに、英語で自分の考えを表現することにつなげたい。また、比較表現や形式主語の学習を通して、情報や考えを効果的に伝える表現を身に付けさせることができると考える。さらに、つなぎ言葉に着目して文章を読み、因果関係を理解するスキルの向上に適した題材である。

#### ○指導観

本単元は、本文の内容理解をもとに、身近なものを世界と結びつけて考え、表現するのに適した内容となっている。そこで、「CAN-DO リスト」の「話すこと①」に関する指導と位置付け、情報や考えを相手に分かりやすく伝えるために必要な構成や表現方法に焦点を当てた指導を行う。また、ICT をうまく活用し、膨大な量の情報から必要な資料を選んだり、グループ全員で意見を交換したりし、協力してプレゼンテーションを作成できるよう取り組ませたい。環境問題の解決策が単にインターネットで調べただけの表面的なものではなく、生徒自身が自分の問題としてとらえ、自分や身の回りの人たちが実践できるようなものになるよう適宜アドバイスを行う。

### 7. 単元の主な目標

- (1) 生物や環境を守る取組について関心を持ち、自分の考えを積極的に伝える。
- (2) 説明文の内容に基づき、問題の解決策についてグループで話し合い意見をまとめる。  
「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標との関連→「話すこと①」
- (3) つながりを示す語句に注意して文章を読み、携帯電話のリサイクルとアフリカのゴリラとの関わりを論理的に理解することができる。
- (4) 比較表現や形式主語を用いた文の構造と意味を理解する。

### 8. 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
携帯電話のリサイクルを通して環境問題に関心を持ち、自分の考えを積極的に伝えようとしている。	環境問題の解決策についてグループで話し合い、発表することができる。	つながりを示す語句に注意して文章を読み、携帯電話のリサイクルとアフリカのゴリラとの関わりを論理的に理解することができる。	① 比較表現を用いた文の構造と意味を理解している。 ② 形式主語を用いた文の構造と意味を理解している。

9. 指導と評価の計画

時間	ねらい	本課の評価規準	評価方法
1	本課の導入と Part1 で学習する語彙や文法事項について理解する。	エの①	後日ペーパーテスト
2	Part 1 を読み、内容の概要を把握しまとめる。	ウ	後日ペーパーテスト
3	Part 2 で学習する語彙や文法事項について理解する。	エの①	後日ペーパーテスト
4	Part 2 を読み、内容の概要を把握しまとめる。	ウ	後日ペーパーテスト
5	Part 3 で学習する語彙や文法事項について理解する。	エの②	後日ペーパーテスト
6	Part 3 を読み、内容の概要を把握しまとめる。	ウ	後日ペーパーテスト
7	Part 4 で学習する語彙や文法事項について理解する。	エの②	後日ペーパーテスト
8	Part 4 を読み、内容の概要を把握しまとめる。	ウ	後日ペーパーテスト
9	様々な環境問題の解決に向けてグループで話し合う。	ア イ	活動の観察 後日インタビューテスト
10	前時の話し合いをまとめる。	ア	活動の観察
⑪	本課の内容を振り返り、グループでの発表を行う。	ア イ	活動の観察 後日インタビューテスト
後日	<ペーパーテスト> ◇比較表現や形式主語を用いた文の構造や意味についての理解をみる問題 ◇つながりを表す語句の働きについての理解をみる問題 <インタビューテスト> ◇発表した環境問題に関する Q & A	エの①②  ウ  イ	ペーパーテスト  ペーパーテスト  インタビューテスト

○は本時

10. 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第3学年）

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価	学習到達目標	評価	学習到達目標	評価	学習到達目標	評価
①聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを大まかにまとめることができ、それを教科書で学んだ表現を利用して発表することを旨とする。	コミュ英Ⅲ ・インタビュー ・テスト ・プレゼンテーション ・ディスカッション	①主題を決め、論点や根拠などを明確にしながら、それまでに学んだ表現を活用して書くことを目指す。	英語表現Ⅱ ・確認テスト ・定期考査	①ネイティブの自然なスピードで話された事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの概要や要点を大まかにとらえることができる。	コミュ英Ⅲ ・リスニング ・テスト	①社会的な話題や時事問題、科学的・歴史的な話題等について書かれている説明や評論などができる限り速読して、情報や考えなどの概要や要点を大まかにとらえることができる。	コミュ英Ⅲ ・確認テスト ・定期考査
②発表されたものを聞いて、理解することができ、疑問点をまとめ、質問することを目指す。	英語表現Ⅱ ・インタビュー ・テスト ・プレゼンテーション	②文章の構成を考えながら書くことを目指す。		②社会的な話題や時事問題、科学的・歴史的な話題等について話されている説明や対話、討論などを聞いて、情報や考えなどの概要を大まかにとらえることができる。	英語表現Ⅱ ・インタビュー ・テスト	②未知の語の意味を推測したり、背景となる知識を活用したりしながら読むことを目指す。	英語表現Ⅱ ・定期考査
③与えられた話題について、自分の意見をまとめ、教科書で学んだ表現を利用して意見を述べられることを旨とする。	・ディスカッション	③図表との関連を考えながら書くことを目指す。		③社会的な話題や時事問題、科学的・歴史的な話題等について話されている対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細をとらえることを旨とする。	・リスニング ・テスト	③文と文との関係やパラグラフの構成を適切に把握することを目指す。	
		④書いた内容を読み返して、可能なかぎりの推敲をすることができる。				④説明や物語などを、聞き手に伝わるように、感情をこめて正確に音読ができることを旨とする。	
		⑤自分の意思が、相手に的確に伝わるように書くことを旨とする。					

1 1. 本時（第 11 時）の指導過程

(1) 目標

本課の内容を振り返り、環境問題に関する原因や解決策をグループで発表する。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
2分	1 本時の学習内容を知る。	・タブレットがすぐ使えるよう準備ができていないか確認する。		
8分	2 Kahootクイズを使い、本課の語彙や文法事項を復習する。	・スムーズにKahootに参加させ、やり方について確認する。	ア	活動の観察
8分	3 本課の内容の復習となる動画を視聴し、質問に答える。	・MetaMoJi にワークシートが配付されているか確認する。 ・ナチュラルスピードとスロースピードで2回動画を視聴する。ワークシートで意味の分からない単語があれば質問するよう促す。	ア	活動の観察 ワークシート (MetaMoji)
27分	4 グループで発表すると共に、他のグループの発表を聞き、評価や感想をワークシートに記入する。	・発表者には、聞き手を意識して、ゆっくりはっきりと発表するよう伝える。 ・他のグループの発表を漫然と聞くことがないように、評価のしかたや感想の書き方 について指示する。 ・肯定的なフィードバックを与えるようにし、良かった点について具体的に言及する。	ア イ	活動の観察 ワークシート 後日インタビューテスト
5分	5 発表に関して自己評価をし、本時の学習活動を振り返る。	・ワークシートを用い、自己評価させる。 ・自己評価を上げるためにはどうすればよいか具体的に考えさせる。		ワークシート

「十分満足できる」と判断される状況	タブレットを使って自分の意見をきちんと表現した上で、他の生徒の発表をしっかりと聞き、適切な評価や感想が書けている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	授業が始まる前にタブレットをきちんと準備させる。発表者には、他の生徒が聞き取りやすいよう、ゆっくりはっきりと話すように伝える。聞き手には、評価の規準を明確にし、客観的に評価するよう指示する。感想は後で英語にできるよう日本語でメモをとることも許可する。